

美術 談話

出席者 木下秀一郎 サイタ 亨 永井 功 佐藤 摩 金成 桂一 黒坂智恵子 徳植清祐 伊藤行男 司会

昭和四十七年七月八日・於原宿南園酒家

伊藤 今年「医家美術展」が、第二十回を迎えまして、一つの区切りでもありますし、八月号を医家美術展の特集号とすることになりましたので、みなさんにお集まりいただき、美術を中心としたよもやま話をしていただきたいと思えます。暑い昨今で申しわけなかったんですが、特に金成先生には、はるばる福島からおいでいただきまして、ありがとうございます。

木下 先生は最長老でして、医家美術展では最初から活躍されていらっしゃるんで、その頃のことを……。 木下 この「医家美術展」も二十年と、たいへんおめでたい。実はわたし、途中で飛び出しまして、第六、七回くらいまで覚えていませんが、戦前の「医家美術展」で伊藤先生にお会いしたのは、昭和十四年だったですな。昭和十四年四月に、日本医家美術協会が発足した時、わたし、芝居のスケッチを持っていったもので、ちょうど芝居のスケッチやっておったものから、そのことを講演したことがあるんです。それが最初の結びつきでございます。

その医家美術協会に、戦争が激しくなるまで続いて出品してました。 戦後になって昭和二十七年だったか、式場君が、日本医師会長の田宮さんから、オランダの世界医学総会で医者の美術展があるんで、それへ日本からもということをお願いされて、ほくにも至急展覧会を組織しなきゃならないから組織の支度やってくれと言ってきました。わたしは、一開業医で、どうも時間がないし、伊藤君にひとつやってみようということを進言しまして、日本橋の丸善だったかな。それで発足したわけで、夏の暑い時期でしたが展覧会をやった。岡崎紙容君だの、小山良修先生など水彩画のうまい連中も参加してくれました。それが「日本医家美術展」の第一回というわけですね。

私の履歴 伊藤 次に自己紹介をかねまして、履歴を皆様にお願したいのですが。

木下 わたしは、習った先生というのは、一人もないんです。会らしい会に出したのはいくつもないんです。会らしい会に出したのはいくつもないんです。会らしい会に出したのはいくつもないんです。

だが、次に三科を創立しました。神原肇、矢部、中原実の諸氏が参加してくれた。わたしはその後は一切画壇のほうには出ません。 一方、歌舞伎のほうで、昔の看板を描いていた名人、鳥居清忠という老人、その方とわたしは、何か気があったのか、劇団の会をつくるから、ひとつ賛助員になって、何か出品してくれということで、結局、そういう展覧会には出しました。



京鹿子焼道成寺絵巻の一部



木下秀一郎氏 皮膚科開業 東京都

永井 マボウの運動というのは、美術史に残ってますね。当時は相当新しい運動ですね。 木下 それはもう、うちにきててもマボウの連中ときたら、まるで紙吹雪なんかないんだからね。裸足で上がってくるし、みんなからさらわれるんだな。てらってるわけじゃないんですよ。その頃の若い絵描きというのは、満足なはいないんだよ。

伊藤 三科のお話の中に出た中原さんは、現在の倫科医師会長の中原さんですね。いまの長老も若いときは暴れたんですね。(笑) サイタ わたしは、昭和二十七年に東京にきて、すぐ医家美術に入ったわけですね。その時分にわたくしの所属していたのは、独立美術が会友で、日本水彩画会の会員でした。途中で「エコール東京」というのを始めました。医家美術では伊藤さんの跡を継いで、美術部の委員をつとめて現在に至っています。独立美術と日本水彩はやめて、途中で水彩連盟に入り、現在水彩連盟の委員をやっております。

個展を現在まで十二回くらいやっており、読売のアンデパンダンとか、毎日の現代美術展、国際美術展なんかに出品しました。 永井 わたしは親戚に二、三人絵描きがお

りまして、わたしの母も岡田三郎助さんについたりしてましたので、山形の高校時代から絵が好きではつづけたんですが、九大の頃、福岡の福岡美術展に二、三回出しました。わりあいむずかしい専門家だけ出す展覧会ですけど、入ったり賞をもらったりしました。戦後、横浜に住むようになつて、昭和二十二年に独立展に初めて出しましてからずっと独立に出しております。また読売のアンデパンダンにも二、三回出しました。医家美術には第二回からお世話になっております。

それから横浜の医師会の美術部には杏林画会というのがあります。家族とか、従業員の方々も入れて研究会みたいなものを十七、八年前からやっております。また十年くらい前に飛鳥田市長と相談して、元の区役所を市民ギャラリーにしてもいいよと、三越の医家美術展に並べられないような大作を中心にしたアンデパンダン展みたいなものを、年一回やっております。何も大きいのがいいんじゃないけれども、中にはほとぼりした情熱が大きい作品の中に出る人があるし、おもしろい作品を出していただく方もあります。

徳植 先生方の中で一番若造で、岡田さん



永井 功氏
産婦人科開業
横浜市



風景

でお話がましくて、もう二十年ぐらいたったらお話できるかもしれませんか……。

わたしは、歯医者をしております。学校を出て先輩のところに手伝いでいらして、それがものすごく忙しくて、夜治療が終わってからは、終戦後のことですから、もう何にもすることがないんですね。北海道でしたから、ちょっと出かけるなんていうと、半日かかりますね。だからどこにも出かけられな

いで。ちょうどその頃、妹が女子美に入ったりなんかしたので、張り合おうような感じがあつたりして絵を始めました。

東京に帰ってきて、神田豊先生、先頃医業をおやめになりましたね。あの先生に終戦直後、大森の青年館みたいな処で「絵を描く心」とかいうようなお話をお聞きしたこともありまして。そして一級美術に誘われて出品してました。医家美術には五、六回ぐらいからお仲間に入らせていただいたのかもしれませんが。もう十何年もたっているんであれながらびつくりしますが、いまだにあんまりバツとしないで、あつちいたり、こつちいたり……。

伊藤 いま美術団体は、どこですか。

徳植 主体美術に所属しておりますが、初めはしろとだから、あつちこつち荒しちゃういけないと遠慮していませんけど、そろそろ生きていくうちに少しやっておこうという感じになって、主体というのには、若い人たちがずいぶん張り切つてやっていますからね。それで別になつていいんじゃないかなと思つて……。妹の先生で一水会の仲田好江さんが、近所できとどき遊びに来て見ていただいたりしています。この頃、ようやく歯医者も

絵も懸命にやらなきゃいけないと思つて、一昨年あたりから……。毎年個展をやるぐらいのつもりですが、それには患者さんを少し整理して時間をつくつてやつてかなきゃならんと思つております。

佐藤 わたしは、絵を始めたのは、余成先生と一緒に学生時代です。戦争中の軍国主義一本やりがやりきれなくて、キャンパスをぶら下げては出かけたんですが、当時は海岸で絵なんて描いてますとスパイ容疑をされるんですよね。それにもめげず一生懸命描いて、比較的暗いあの時代に絵でもって明るさを取り戻そうと、戦争にいくまでやめないでおりました。

当時の仲間には、二科会へ出品して入選して、そのまま出征されて行くえ不明になつてしまった方もいらつちやいます。戦争が終わつてまいりましてから、医家美術へわたしが出しましたのは、昭和三十三年、四年でしょうが。

わたし、ちょっとからだを悪くしたこともあるんですけど、ものを描写することよりも、何か内側に向かったものを描きたいというような気が起こつてきて、どうしても抽象になつてしまつたので、抽象絵画を始めか

ら、モダンアートに出しまして、医家美術に最初に出したのも抽象絵画だったんです。

伊藤 紅一点の黒坂先生……。

黒坂 先生方みなさんは、プロでいらつちやるけど、わたしはアマチュアでお恥すかしんでございませうけど、ただ絵がもう好きで好きでたまらないんでございませう。

たしか昭和十四年に、日曜日だけ文化学院で教えて下さるのがございまして、ちょうどその頃、石井柏亭先生、裕伊之助先生、木下義雄先生、俣い先生ばかりかわりばんこに教えにきて下さるわけです。そこで楽しんで描きまして、そのうちにそれだけじゃ足りなくなりまして、日本美術学校の夜学を受けまして、昼間医専に、夜、日本美術にいらつちおりました。それを内緒にしておりましたのが親に見つかりまして、たいへんおこられました。わたしの兄が一水会の委員をしており、有島生馬先生にお弟子入りしておりましたので、やっぱり有島先生のところに行つて習いなさいといわれまして、土曜日と日曜日、番町のアトリエに通つておりました。戦争が激しくなる前に米葉会に、女の人だけの展覧会に出させていただきました。その後は主婦業が忙しくなりましたが、どうしても絵

をやめるわけにはいなくて、描きたくてしようがなかったものでございませう。読売のアンドパンドンにも、ずつと続けて出させていたいただきました。

そのうちに、バイオリンの才能教育の鈴木錦一先生のもので、才能教育の雑誌の編集をやるようになりました。そのとき鈴木先生が、「医家美術」みたいな本をつくつて下さいといわれまされたもので、それで初めて「医家美術」という本があることを知りまして、お仲間に入らせていただきました。

伊藤 鈴木先生が「医家美術」をごらんになつたわけですか。

黒坂 式現先生がお送りになつておられました。両先生は仲がよかつたようですよ。

伊藤 黒坂先生のお師匠さんというのは、みんな一流の方ですね。たいしたものですね。

黒坂 ほんとの師



佐藤 康氏
耳鼻咽喉科医
東京都

148

風景



んので、描けないので思うようにならないので、いろいろしております。

伊藤 でも絵の制作の時間は、おそらく黒坂先生が一番かかってますね。

黒坂 ちょっと大きいと約一年かかりです。この間、三越に出させていたいたのは、三カ月かかりました。でも描けなくて、いつも返ってきてからまた直すような始末で、ございます。

永井 楽しい絵ですね。

伊藤 たいへんな力作ですね。

黒坂 わたくし、まだ先生方のようになっておられませんので、写実で描いてまいりまして行き詰まりましたんです。それでどうしても立体的に描かなければと、また写実描写をやり直そうと思ひまして、いまやり直している最中で、修業中でございます。またそのうちにかわると思ひんでございますけど。

金成 わたしも実は取り立てて申し上げるほどの画歴とてございませぬけれども、絵はまことに下手の横好きと申しますか、油絵は小学校のときからいじってました。というのはわたしの親戚筋に絵描きがたくさんおるものですから、まアわたしの死んだおやじはもちろん、おふくろも。おふくろは現在七十五歳ですが、いまだに張り切つて描いています。

そんな愛憎気だったからですかね、小学校の四、五年の頃に油絵の道具買ってもらった記憶があるんです、それ以来来たべたべたやっております。大学にまいりまして、こちらにおいでになる佐藤先生初め、非常に優秀な先輩方がいて、たいへん刺激を受けました。終戦後軍医学校から帰つてきましてか

また具象に戻るといふような、非常にたどたどしい画歴をたどつての始末でございます。

伊藤 いまおやりになつてゐるのは、和紙？
金成 和紙でございます。あれはわたしの地方、いわき独特の和紙でございます。

伊藤 和紙を染色なすつて貼りつける？
金成 はい、染色の方法もいろいろござい

ますが、簡単にいえばビニール塗料を使つてみたり、ポスターカラーを使つてみたり、わたしはおもに日本画の顔料を使つてます。

伊藤 医家美術展では、先生の作品はユニークで……。

金成 いやいや、お恥ずかしい。

伊藤 実に色調効果がいいもんですから度々おねだりしては表紙に使わせていただきまして、ご迷惑ばかりかけております。

金成 「医家芸術」との結びつきは、実は大先輩の古川盛雄先生が、わたしの県の重鎮で、県の文化長でありまして、その古川先生にすすめられまして、こういう展覧会があるんだが、まアとにかく出してみようというふうなことで、出さしていただいたのがきっかけでございます、そこで戦後はじめて佐藤先生にお会いすることができました。もうかれこれ十年近くなるかと思ひます。



黒坂智恵子氏
小児科医
千葉県

作品 A



私の好きな画家

伊藤 八月号の美術展特集で、たくさんの方にわたしの好きな画家とか作品とかアンケートをお願いしているんですが、みなさんにも古今東西の一番尊敬している画人とか、好きな絵とか……。木下先生、どうですか。あまり多過ぎて……。(笑)

木下 やつぱり素直なんかいと思ひますね。黒坂のほうはあまり感心しないんですけど。これはもう世界的に自慢できるね。

サイタ 好きな絵、好きな画家となると自分の時代によつて、ある程度かわってきますね。ある時代はあれが好きだと思つたのが、いまはそうでもないというふうな……。

伊藤 特に抽象と具象を繰り返したりしている人は変化するでしょうね。どうですか、黒坂先生は。

黒坂 わたしは好きな方多くて困つちゃうんですけど、昔、レオナルド・ダ・ビンチ、ベラスケス、この頃、ゴッホ、日本だと浮世絵の広重と春信、現在は有馬生馬先生、岡鹿之助先生。

伊藤 岡さんは、先生の持ち味と共通したものがあつますね。



金成桂一氏
内科外科開業
福島県

150

焦 編



サイタ ぼくは、前からクレイなんか好きだった。それは現在でもかわらないですね。日本でも独立当初には、里見勝蔵なんか非常に崇拜して好きだったんですよ。いまは必ずしもそうじゃないんです。佐伯祐三は前から好きだったけど、いまも大好好きですね。ピカソも好きです。何かあの中に非常に強い信念と動きが充滿しているんですね。

金成 わたくしもサイタ先生と同様、ピカ

ソ、ゴッホ、日本でいうなら佐伯祐三が最も好きです。

佐藤 一人ずつあげるとすれば、わたしはわりと軽いものが好きなんです。向こうの人じゃ、デュファイが好きですね。こちらでは現存の人では高間勉七さん、あの方必ずしも軽いという意味ではないですけど、佐野繁次郎、好きですね。

永井 僕も時代によって多少違いますけど、クレイとか、もつと素材に言えばアリュールとか、ポッシュですね。日本の画家ですと、独立では須田國太郎にあげられているところもあります。また派が違いますけど、岡さんもやっぱり魅力を感じますね。それから素朴な精神、たくましさを持つアンソニー・ルソーなんか、やっぱり匠書に一番ピタリとくるものがあるんじゃないでしょうか。

徳橋 ピカソ、偉いなと思って尊敬しちゃいますね。マチスなんかにもだいたい骨の作品に好きなのがありますね。色気が多いほうです。日本では、昔安井曾太郎に惚れこんだことありますけど、いまは少し色あせて……。

抽象と具象の問題

伊藤 本来の姿に帰るといふようなことにならなすかね。

永井 抽象、具象といったことは、流行みたいなもので、一時あんまり激しく人間の心だけ、あるいはいるんものをぶつけてったけど、いまもう一つ落ちついた形で、形式じやなくて、抽象、具象というものを越えて、そこにか何か世界があるんじゃないかというように考えます。日本の伝統見ても、ある意味では抽象ですよ。宗達なんかの仕事見ても、東洋的な抽象の世界を持っているんじゃないかというような感じがある、曲がりなりにもやはり形式じやないものがある、いいんじゃないか、具象、抽象を超越して、やっぱりいいものはいっぱいあるんじゃないかと思

金成 先生の最近の画風はちょっとかわったね。

佐藤 抽象と具象とをふらふらするんですね。どうも悩まはりました。

佐藤 というのは、初めは新しいことがやりたいという多少にそういう気持ちがあったんだ。描写的なものをさせて、なるべく画面処理だけで、そういうものをやりたかったんです。ところが、やっぱり年節的なものなんですよ。アマチニアの自由さというものを、もう一度取り戻したいと思うようになった。それでまたものを素描して描く。ヨーロッパ旅行したときに、とっても楽しく描いたんで、描くってこういうことの喜びを、少し絵がむずかしくなってきたところへ、そういうものを描いたときに、非常に描くことが面白かったというの、また具象に戻った原因ですね。ここ二、三年、同じようにやっていきたい。

伊藤 こうしてみなさんを見ますと、ほんとに具象だけを追求しているのは黒坂先生お一人だと思えます。あとの先生方は具象なり抽象なり、両方おやりになると思えます。そしてどっちかというと、若い時に抽象やって、年とるとだんだん具象になって、木

風 景



徳植清祐氏
歯科開業
東京都

下先生なんか、三科から歌舞伎へと、大転換なすっていらっしやるけど、どうもぼくは何となく感じるんですが、日本人は最後には東洋的なものに帰って年とるとに従って次第に淡くなって来る。若い思考から脱皮するのだから、葛城に近くなって東洋人に帰るのか知らないけど、そういう傾向ないですかね。

木下 年とると、よけいしき込んできます

伊藤 本来の姿に帰るといふようなことにならなすかね。

永井 抽象、具象といったことは、流行みたいなもので、一時あんまり激しく人間の心だけ、あるいはいるんものをぶつけてったけど、いまもう一つ落ちついた形で、形式じやなくて、抽象、具象というものを越えて、そこにか何か世界があるんじゃないかというように考えます。日本の伝統見ても、ある意味では抽象ですよ。宗達なんかの仕事見ても、東洋的な抽象の世界を持っているんじゃないかというような感じがある、曲がりなりにもやはり形式じやないものがある、いいんじゃないか、具象、抽象を超越して、やっぱりいいものはいっぱいあるんじゃないかと思

ら、あるときは非常に形がなくなつたかと思うとまた戻ってきて、そういうものはやっぱり日本的な抽象かもしれないけど、自分が消化しながら、そういう世界に入っていっちゃるんじゃないか。そういう作家には本物だという感じがしますね。

サイタ わたしはこういふことを考えるんですがね。伊藤さんがいわれたことの続きですが、始め具象的なものをやるんですね。そして次にあきたらんようになって抽象性のあるものをいろいろ検討するんだと思えますがね。そ



サイト 亨
監理人科開業
東京都

電子音楽



れから抽象で終わる人もあるし、抽象性、具象性というものを、いわゆる侵食してやるのもあると思うんですよ。そのときの具象は初めの具象とは違うと思うんですよ。似た格好であっても違ったものですね。

伊藤 金成先生は、リアルな仕事は、いままおやりになっていますか？

金成 はい、半々。たまたまわたしのところは港に近いものから、北洋漁業の漁獲

館ですね。非常にきれいな旗を一ぱい並べた船の出っていくところを、五十枚ばかり描いたことあるんですが、それを追究している中に色とコンポジションになってしまいました。

わたしはキャンパスに向かったときの自分の態度としては、具象であるからこう、抽象であるからこうというようなものは、あまり意識いたしません。結局、自分の精神の訴えたコンポジションとトーンと、その組み合わせが、わたしの愚作というような結果になっているかと思いますが……。

木下 結局、基本はそれだからね。

伊藤 抽象でも、何か微妙なニュアンスとかなんか心理的なものとか、ものの形をきめて出さないと、ちょっと描けないというのもあるでしょう。どうしても具象に入ってきてしまうんですね。

金成 まるいお皿をまるく描いていると、飽きますね。

佐藤 わたしの場合には、抽象やつてるときは、完全に抽象なんです。描写は全然入れない。描写の絵描いてるときは、素朴的な要素だけを強くして、抽象的な要素からは離れる。一人で洋楽を聴いて、またときには小唄を歌うというふうなことです。

伊藤 第四回展の批評の中にですが、「この医家美術展は、性格として医家美術家のアンデパンダン展としての性質の一面と、プロ級作家の展覧会としての性質の一面とが共存している、という点に特色があるが、この特色をそこなわないで、むしろ積極的に拡大し、助長する方向に発展してほしい。この二つの面の共存は明らかに矛盾で、ほかの美術団体ではあり得ない性格だが、医家美術展から将来、医家でなければ打ち出せない美術的取組を、日本の現代美術の上にもたらせるためには、根拠よくこの矛盾を引っぱりながら成長すべきであって、性急にプロ的作家のみに主体を移すことは、かえって医家美術展の特色と可能性の限界を縮めることになる危険があるとおもいますね。」

これは誠に適切な方向だと思えますね。

サイト はくらずつと見てるけど、作品が年々よくなっているんですね。

永井 その植村さんの言葉は、真実ある一面出しているんじゃないですか。

サイト 医家美術の本質的なものですね。永井 アマチュアだから、この程度でいいとか、そういうんじゃないかと、絵はよければいいということは、純粋に考えられますもの

医家美術展の将来

伊藤 今度は二十回の記念展だったものですが、三越と梅沢記念館と両方でやったんですが、ほんの一言ずつでも二十回展の印象を述べていただければありがたいんですが。

木下 なかなか会場を借りるのたいへんなんでしょう。

伊藤 梅沢記念館ですか？ あれは医事新報社さんの特別のご好意で、外に開放したのは初めてなんです。

永井 絵を鑑賞するというのは、何も絵描きの会だとか匠者の会だからというんじゃないけれども、あの雰囲気いいんですね。あれがほんとの絵を鑑賞する雰囲気ですね。

伊藤 あれ以上のもの、東京中さがしたってないですよ。

おしまいにわれわれの医家美術は、今後どういうふうな持っていったらいいか、何か注文がありましたら、聞かして下さい。

木下 やっぱり美術展覧会がおもだからね、結局は。

サイト 再来年に世界医師大会があれば、それに便乗してやるということはないですか。何かの形でやれる可能性はないですか。何かの形でやれる可能性はないですか。

伊藤 木下 プロ作家よりは、熱心に描いていますよ。ただ、回り道をしていることがある。テクニクとかなんだとかだね。ちょっとむだなところがあるんだね。

サイト だからほくは展覧会るときに、年に一度自分としては機能的なものを、あのくらいの大きさで出すわけだから、その機会をみんな利用して、自分の絵なり、人の絵なりを批評し合って、どうだろうかということをし、その次にはこうだという精神を持っていく、そういう機会をつくりたいですね。

佐藤 そういうもの欲しいね。

木下 自分が描いていけば、一番うまいと思ってるんだものね。比べてみると、やっぱりわかるからね。

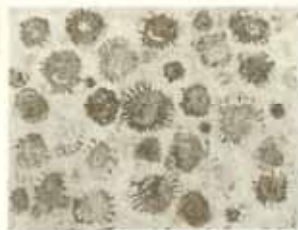
サイト 来年のために人の批判を聞くというのもいいですね……。

木下 マックアウとにできないものができるのがしろうとだね。くろうとはうらやまがあるよ。

伊藤 大体それで締めくりができたと思いますから、このへんで……。どうもありがとうございました。

(了)

に



伊藤行男氏
内科
東京都

るんでしょ。医家美術展は三越でやる以上、作品はどうしても小さくなる。小さくてもいい作品を出すことによって、充実した展覧会ができます。おそらく去年度あたりは、四号から十号ぐらいの間でいい作品をね。

伊藤 偶然古い医芸誌を引っぱり出してましたら、医家美術展の性格について植村廣千代先生の適切な言葉をみつけました。もうみなさんも忘れていらっしやると思うんで……。

第四回展の批評の中にですが、「この医家美術展は、性格として医家美術家のアンデパンダン展としての性質の一面と、プロ級作家の展覧会としての性質の一面とが共存している、という点に特色があるが、この特色をそこなわないで、むしろ積極的に拡大し、助長する方向に発展してほしい。この二つの面の共存は明らかに矛盾で、ほかの美術団体ではあり得ない性格だが、医家美術展から将来、医家でなければ打ち出せない美術的取組を、日本の現代美術の上にもたらせるためには、根拠よくこの矛盾を引っぱりながら成長すべきであって、性急にプロ的作家のみに主体を移すことは、かえって医家美術展の特色と可能性の限界を縮めることになる危険があるとおもいますね。」

これは誠に適切な方向だと思えますね。

サイト はくらずつと見てるけど、作品が年々よくなっているんですね。

永井 その植村さんの言葉は、真実ある一面出しているんじゃないですか。

サイト 医家美術の本質的なものですね。永井 アマチュアだから、この程度でいいとか、そういうんじゃないかと、絵はよければいいということは、純粋に考えられますもの

「医家芸術」の過去・現在・未来



出席者

日本医師会長 武見 太郎	日本医家芸術クラブ委員長 東 龍太郎
日本医家芸術クラブ副委員長 原 三郎	「医家芸術」編集委員 司会 椿 八郎

昭和49年2月25日 於・原宿南国酒家

「医家芸術」誕生前の医家芸術家たち

椿 「医家芸術」もいよいよ四月で二〇〇号になりますので、それについて、「医家芸術」誌の功罪ですね（笑い）。「医家芸術」に対する過去・現在・未来の武見・東両先生のご感想をお話しねがいたいと思います。まず、二〇〇号を祝して乾杯……。

武見 ほくは、「医家芸術」が生まれるまでの医界の中の動きというものが、大へん大事だったと思う。お医者さんには古いところでは森鷗外、その他いろいろな本格的な芸術家がいらしたわけでしょう。

その本格的な芸術家の芸術というものが、後輩に対してどういふ影響を与えているか、ということをお考えますと、わたくしは森鷗外の影響というのは、医学生に対しては大へんな影響があったと。

彼の芸術観とか、審美眼というものはもうまったく文人で、アマチュアじゃないわけです。その後皮膚科の太田先生（木下幸太郎）とか、いろいろな方が出ましたが、これも尋常一獲のものじゃなかったと。

それで、亡くなられたけれども、いろいろそういう方のおとで、医者の世界の芸術とい

うものは非常に大きく動きが定つてきたと思う。その裏に、非常にポピュラーにして下さったのが正木不如丘先生だったと。

その正木不如丘先生がいなかったら、ほくは「医家芸術」の雰囲気は出てこなかっただろうと思うんですよ。そこへ、式場先生のよろな一つのすばらしい企業力と感覚を持った先生が出てきたということが、非常に大きな「医家芸術」というものを、全体の医者のものにしたという点で、ほくは非常に大きな功績を考えているんですがねえ。

椿 式場さんは新潟にいたわけなんです、正木さんが盛んに書いていた時は、その当時から式場さんも、医者の文芸雑誌というものを出したかったんです。それがわれわれの雑誌——「原」というものが出たんで、式場さんは「ああいうものをやりたい」ということをしきりに考えていたらしい。それが導火線になってるんです。正木不如丘というのは鶴外なんかと違って、医学それ自身をとりあげた日本における初めての人なんですわ。

武見 そうなんだ。椿 それを如何に面白く、如何に楽しくみんなに読ませるかということをお不如丘は心がけた人なんで、それを木々高太郎と彼は「テ

ィレットメント文学の最高なるもんだ」といってもほめていましたね。

原 不如丘を非常に買われる——というのは、狭い医学というんでなく、人ですか。

武見 それは「医学の心」というものを文芸で表現されたという意味で、ほくは高く買っていますね。ほくは、正木不如丘の医師としての、医者と患者との関係という意味で、彼が、医学の心というふうなものをああいふふうに取り上げたということは、まったく新しい試みだったと思うんです。

それで、あれがもし逆に式場先生が先に出ていて正木先生があとから出たんだしたら、こういふ形にならなかったと思う。

椿 それは式場さんのやり方と、不如丘のやり方とは全然行き方が違うんです。

武見 違うんだ。椿 式場さんのは、まだ医学というものの本筋がお尻にくっついていて、いつでも、ところが不如丘の文学というものは、その医学というものをすっかりこなしちゃって、自分のものにして新しいものを生みだしているんですね。

東 ほくは、正木不如丘にしても、小酒井不木にしても時代があんまり違わないんで

す。同じような時代に大学におったんだけど、でも、そういうふうなことにちっとも感激しなかったら、文学とか芸術というものに不感傷だったんだな。

椿 どこでもお会いになりませんでしたか。東 親しく会うような時はなかったです。小酒井氏のほうは、水井先生の所によく来ていましたけど、それから太田正雄さんと一ばん接触が多かったですね、太田氏が教授になつてきてからね。通称「山上御殿」の教授食堂で昼めし一緒に食うもんだから、いろんな話を聞かしてもらったりしましたよ。

椿 それは何年頃ですか。

東 昭和十年前後で、戦争に入る前ですね。武見 ほくは、非常に医者の世界にとって幸福だったことは、森鷗外とか、木下幸太郎という人が本筋の芸術をもっていて、そのあとに正木不如丘みたいな、医学の心で文学青年が出た、ということこそ非常に面白かったと思う。

原 あの人は非常に秀才だったんでしょ。武見 そうですよ。そうして、それを今度式場さんが受け継いだことによつて、今までの非常に本筋の文学と芸術というものを、正木不如丘と一緒に取入れて大衆のものにし



東 藤太郎氏

ですね。

原 イタイな、それは。まったく同感ですね、人がいないんですね、結局。

武見 これは期待するほうが無理なんですよ。

榎 そういう人物というのは、しょっちゅう出てくるもんじゃありませんよ。

武見 これはもう、しょっちゅう中はけっして出ませんよ。それが、ほくは若いお医者さんにとった影響というものを考えることと、開業医の「精神的な荒廃」を防いだ、という意味では大きかったと思う。ほくは「医家芸術」に投稿している人のを、忙しくて全部読むわけじゃないけれども、読んでると、あれに投稿している人には、やはりほくは開業医として尊敬する人が多いですね。

榎 それはニスプリがあるということでしょうね。医学の真髄にふれるあるニスプリですね。だから、そういつてはなんだけれども、カネのことばかり考えている医者とはちよっとわけが違います。

武見 それから、人間としての生き方を考えている人が多いよな。きみ、人間としての生き方を考えないでいる動物が医者であることは、不愉快だよな(笑い)。

榎 そういう意味では、これは「医家芸術」の功のほうですね。

武見 ほくは俳句のことはわからんけれども、水原秋桜子の散文は非常に好きなんだ。

榎 彼は、もとは短歌の人です。文章を書く人のごく最初は、短歌の人が多いですね。

武見 ほくは秋桜子を見ると、やっぱり医学の心をうたつてあるのがずいぶん多いですね。

榎 表は俳句の形をしているけれども、そのニスプリには医学者というものがありますね。

原 だから武見さんの力強さよりもポイントはそのにあるんじゃないかな(笑い)。

武見 いや、それは全然違う。よく、いろんな人がいろんな批評を下さるけれども、ほく自身が納得するのにも一つもぶつかったことないんで……(笑い)。

榎 日経新聞にいつか伝が出たでしょう。あれはどうだったんですか。

武見 あれは、ほくは自分で書いたんだ。

榎 ああ、自分で書いたんですか……。

武見 あれ、きみ、ウツは書けないよ。単行本になってますよ。

東 日経の「私の履歴書」は面白いですね。

だからわたしは、たいていの新聞は一ページから読むけれども、日経だけは最後まで読むんですよ(笑い)。

明治医学の開拓者たち

原 ほくは明治の新しい医学の開拓の人を第二世代目が生きてる時代につかみたいと言っているんですよ。その時にやっぱり長秀三先生と、土肥隆成先生が頭に浮かぶんですが、どんなものでしょうか。

武見 ほくが直接接触したのは石黒忠盛子爵なんですよ。ほくのおやじが亡くなった後、後見人でしたからね、うるさいジイサン



武見 太郎氏

で、毎月報告に行くんだよ(笑い)。

だけどほくは、あの頃の話を知っていると、やはり日本がドイツ医学を採用したというのは慧眼でしたな。それから、とにかくほくは医学が先に、ヨーロッパ文明に一番早く追いついたのは医学でしょう。

東 そうでしょうねえ。

武見 そういう点で「ヨーロッパ文化に追いつけ」という日本の国の姿勢の中で一番ずばぬけたのが医学でしたね。

東 まさにそのとおりだな。

武見 その点でわれわれは、われわれの先輩を誇りとしていいと思うんですよ。

榎 外国の科学というものに食いついたのも、やっぱり医学でしょう。

武見 いや、物理学だって食いついていまして、でも、医学のような進歩はないですね。これはもう長岡半太郎先生くらいになって出てきたんで、その頃はもうニールスボーアみたいなのも出ていますし……だからほくは、ヨーロッパの文明に一番先に目標を置いて追いついたのが、日本では医学だと。

そういう点で、ほくは、明治、大正期の医学者というのは、日本文化に最大の貢献をもたらしたということだね。

ほくは「東京大学五〇年史」というのを全部読んだことがある。あれは立派な本ですね、非常に。

榎 だれが書いているんですか？

武見 これは、大久保利謙という立教大学の先生をした人で、大久保利通の孫ですよ。大久保利謙という歴史家が書いたんですが、ほくは、これは立派だと思っただけ。もう一つ、これもまったく違うけれども、各県の医師会の歴史を書いたものがあるんだね。正宗敦夫という人が「岡山の歴史」というのを書いてる。これは立派だよ。ほくは、東京大学を外から考える時、あの五〇年史を読まないで東京大学を考えられないと思うな。どうですか。

東 そうかもしれませんな。そういわれれば、わたしはもう一べん読まなきゃいけないな(笑い)。

武見 だから「医家芸術」というのは、偶然に出たんじゃなくて、そういう先輩のいろんな業績が、いろんな要素として入ってきてるんだ……。

東 そうだろうね。

武見 だから、自然発生的みたいに見えるいて分析していけばいろんな要素が入ってる

けれども、ぼくはわりあいニールターにかかって、いいものが残ってきていると思う。

東 それをつかむのに、式場さんという人がちよつどいい時に……。

武見 いい時に出たんですよ。

東 やつぱりああいう人がいなければ、できませんよ。

松本順と赤十字旗

榎 明治医学の先駆者の一人に松本順という赤十字を始めた方がいますね。

武見 ぼくは、彼の書いた「葬の如きのみ」という額を持ってるんだ。おやじがもらって持ってたんでね。

東 わたくしもくわしく知りませんけれども、とにかく非常にユーモアのあった先生だと思ふな。ぼくがそういうことをいうのは……

榎 明治五年ですか、陸軍の軍医頭の時、衛生兵とか、あるいは野戦病院とかいうものに標旗を作りたいというので……。その時には国際赤十字はできておいて、普仏戦争などで白地に赤の赤十字旗が大いに働いたこと知ってるでしょう。だから陸軍衛生部の標旗に白地に赤の赤十字の旗を使いたい……というんで大政官にねがいでたんだ。そうしたら却

下されたんだ。タロスというのはヤソ教に關係があるので、そういうのを帝國陸軍で採用するわけにはいかんと。そうしたら松本さんがやったことは「それじゃあ、赤十字の上と下を消して赤一文字にしろ」と。それを標旗にしたんですってね。

そのウラには、こういうこともいわれているんですよ。どうせあんなこといったって頭迷固陋な大政官も、今にすぐに赤十字を使わなきゃならなくなる。その時は上下をくつつけりゃあ、すぐに赤十字になるからちつとも損をしないんだから……とうそふいたという伝説が残ってるんですが、それが松本順軍医頭だと。

陸軍が正式に赤十字標旗を採用したのは、日本が赤十字条約に加盟した翌年の明治二十年十一月だそうです。

榎 痛快な人だったらしいですね。

東 その旗のことにわたしが気がついていたのは、日本赤十字社の前身博愛社が明治十年西南の役の時に熊本に仮病院をつくって……、しかもその時の官軍と賊軍の両方の傷病兵を看護したんです。その時の旗を見ると、赤一文字の上に日の丸……いいかえれば日の丸の下へ赤一文字を付けたというか、そういう

話で、たいぶ慶応義塾の図書館や北里図書館にご寄贈したのがあるんです。その中には、小池正直という軍医總監がいましたね。

小池さんが、東京大学の医学部から軍医を募集した第一号の志願者なんです。そうして、森林太郎が落ちてるんです。それから、小池さんが今度石黒軍医總監に直訴状を出しているんです。自分の同級に森林太郎というすばらしい男がいるが、ドイツ人のお腹教師のシエルツェとけんかをして、彼は陸軍に推薦されなかったんだと。国家のためにぜひ、この男をとっていただきたい、という漢文で書いた嘆願書が出ているんです。

榎 それは、なんに出ているんですか。

武見 その手紙があるんだよ。それをまた、ぼくが感心したのは、当時の軍医總監で大へんなんですよ。

東 ええ、それはそうでしょう。

武見 それが、一学生の森林太郎を呼んで会ってるんですよ。呼んで会って即座に採用してるんですよ。今は、できない……といってるんですよ。(笑)

東 そういう時代は、いいねえ。

武見 それをぼくは、直接石黒老翁から伺

った話でもあるんですけどもね。それで第一は、いかに森林太郎に守らせた仕事は、胸気が多いと、胸気の調査に陸軍は玄米食を食わすと。陸軍は白米でいいんだと。どっちがいいかというのを調べさせたら、森林太郎は「白米が消化吸収がばんよろしい」という報告を出しているんです。奉書に墨で書いた報告書が出ていますよ。これも石黒家にありました。

原 克明だな、武見さんは。

武見 それで、ぼくは石黒さんが亡くなったあとでそいつを……少しあつたものを頂戴してきて大島三郎に「整理してくれ」と。それができあがっている、カタログができました。

原 武見医師会会長を、一般の医者や世の中では「強いことばっかり言ってる」と。ぼくも罵っているんだが、こういう藝術的なコマヤカさをみんなが必ずしも知ってるわけじゃないからなあ。

武見 いや、きみ、医者というのは木剣切がやる面売だよ。殊に患者から金儲けしようなんというの、一ばんグスの木偶切だよ(笑)。

う旗なんです。赤十字じゃないんです。榎 はあ……ダンゴですね。

東 ダンゴなんです。だって、博愛社というの、やつぱり外国の赤十字のことを知って作った組織でしょう。その旗が、そういう標旗なんで「おかしい……」と思つて調べてもらいましたら、陸軍の衛生部の標旗が横一文字だったんで、それを借りて……赤十字で

すから、陸軍じゃありませんから、その上の日の丸をつけたんです。そういう旗が繪に残ってるんですがね。

それからあと明治二十年に正式に日本赤十字社となったんです。その時は明らかに赤十字なんです、旗が。

武見 石黒さんの「石黒況翁九〇年の回顧」というのに出ておりませんか。

東 ありますよ、早速調べてみますよ。

武見 これは大へん面白いです。ぼくもいただいたのがあって、どこかにしまいこんでありますが、もし本社になかったら探します。

東 ありがとうございます。

石黒忠憲と森林太郎

武見 ぼくは、石黒家にある医学関係の文

はニスプリを持っているというわけだね。

武見 そうだ。

原 それでなくちゃいけない。

榎 そこが奪いところなんだ。

土肥慶憲と鈴木梅太郎

東 さつきの話に補うけれども、東大のいろんな偉い先生方がたくさんおられるけれども、土肥慶憲という人を尊敬しますね。

原 ぼくもそう思ってるんです。呉先生は偉いと思いましたが、トマツキにくい人だと。

武見 土肥慶憲先生ね、あれ、ウィーンに留学したんです。その時ウィーンの公使が牧野伸顯なんだ。

原 あなたのつながりなんだな。

武見 鈴木梅太郎先生がその時一緒に行動しておられたんですね。それから金杉英五郎先生がね……。

東 やつぱり、名士が集まってる。

武見 その時ウィーンの大学の先生たちが、鈴木梅太郎先生と土肥慶憲先生は「ウェルトベカントになるであらう」といつて期待してたそうですね。それで、牧野のジイさんが……金杉さんは補る頃になって耳鼻科を選

択したんだそうです。だけれど土肥さんと、鈴

木

木

木



木さんにもうウェルトベカントになるであろうと、むごうのプロフェッショナルが言っていた。

權 それは直接聞いたんですか。

武見 これは面白い話があつて——戦中です。牧野のジイさんがぼくの家へ遊びに来た。夕方になつてもまだしゃべつてた。そうしたら鈴木梅太郎先生が浴衣がけでひょっこり見えた。まあ、理研で、ぼくも大へんお世話になつていて、ときどき診察もしたし、そんな関係でぼくの家にヒヨロリと。

先生は渋谷に住んでおられて、ぼくの家は青山だったからヒヨロリとやつて来られた。

そうしたら、私は農商務省に入った時、あなたは農商務大臣で、あなたから辞命をいただいたと(笑い)。そうして、今度、安積得也くんといつて樹木熱知事の……彼がヒヨコッとやつて来てそこで入つて……

こういふのが集まることは珍しいというので、近所のささやかな料理屋に行つて一晩飲談をしたことがあつた。その時面白かつたのは、鈴木先生はあんな大家で農商務省の会議では会うけれども、石黒さんとは個人的に会つたことはない。それで非常に面白くて、それからあと、時々鈴木先生は牧野伯を訪問されたな。

權 なるほどねえ。

武見 昔の公使というのは留学生の面倒をよくみたそうだが、鈴木先生の話を知ると、一か月に一回は必ず呼んでご馳走して、いろんなことを世話してくれたそうだが。今の大使館は、かまやせんですねえ。

東 かまやせんです。まあ、あのあたちに言わせると、大使館というのは日本人のお世話なんかする所じゃないんだと。そういうことをするのは領事館だ、というんだ。大使館というのは、日本の国家の代表で、個人なんかの世話をする所じゃない、というのが

大抵ですね。

權 昔の「彼輩を可愛がる」というのは日本の習慣でしたがねえ。

ベルツ

武見 ほくはその頃、ベルツを選んだ理由を牧野のジイさんから聞いたんだが、その時東京大学に優秀な内科医者を頼もうというところで、青木周藏という公使がベルリンにいた。青木周藏と牧野伸顯がその選択係をおおせつけられた。両方で五〇人ぐらいの候補者があつた。

三〇人ぐらい面接したそうだが、そうしたら



「どうぞお上り下さい」といつたら、先生は上りこんだ。ほくは、牧野のジイさんに、鈴木梅太郎先生が見えたから、お会いになりませんかと言つたら「ぜひ、会おう」というんで、ぼくがお世話になつてゐるんだから……」

鈴木先生は「浴衣がけじゃあ、まずい」と。元老に会うのにな(笑い)。なに、かまわな。それで会われて、初対面の大へん丁寧な挨拶を牧野伯がされたんだ。そうしたら鈴木先生が、あなたは初対面じゃありませんと。私がウィーンに留学した時にあなたは公使で、しょっちゅう公使館でごちそうになりました。

東 そりゃあ、面白いな。

武見 その時、土肥隆藏が一緒だったという話を鈴木先生からされた。そうしたら、土肥隆藏先生の話は覚えていたけれども、鈴木先生の話は覚えていなかったんだ。ジイさん。そしてその時また、不思議なことがあるもんで、しゃべつてゐると今度石黒忠篤さんが現れた。そうして、じゃあ、ついでにもう一緒に会い下さい、といつて座敷にお通ししたら、やっぱり石黒さんにもぼくはお世話になつてゐるんだから、牧野のジイさんが丁度にご挨拶したんだ。

両方で完全に一致したのがベルツだと。大学出てまだ三年か、四年の若いんですよ。それでベルツが一ばんいいというんで、ベルツにきまつた。そのいろいろな選考の話を書いてみても、青木周藏公使も牧野公使も、学問というのに対して理解を持ってましたね。今の外交技術屋と違ふんだ。ぼくは、日本の国力がそう発展しない時に、あれだけヨーロッパの文化を早急に吸収できたというのは、やっぱり学問に理解のある外交官がいて、その国のいいものを専ら取入れたということだと思ふんですよ。

權 人間の底が深いんだ。どういふところが、そのお二人に気がついたんでしょね、ベルツの。

武見 それは二人が完全に一致したのは「偉大な人物である」と。それから、日本を全然バカにしてなかつたそうだが、ほかのは、ちょっとバカにしてたらしいんだ。ところが絶対に日本をナメてなかつた。

東 いい人を選んだんだ。そんなにたくさんいなんじゃ、中にはタズもいたんでしょねえ。ちょっと見はよくつてもね。

武見 ベルツとストリエンベルは同級生なんです。ストリエンベルの自叙伝読みます

と、ベルツはおれの同級だけれども、日本に行つたらオリエンタリッシュに終つた。もし、彼がドイツにいたら、ウェルトベカントになつていただろう——と、自叙伝に書いてますね。

權 ベルツは帰つてから、何をしましたか。

武見 ほくはよくわからないけれども、もう子孫は失くなりましたね、完全に。ハット・ベルツでお終いです。孫で、ハット・ベルツがぼくの家へ来て、そうして帰つて一週間ぐらいで死んじゃつた。

權 彼は商人だったですね、孫は。

武見 あれ、シーメンズの社員でした。変な話だけれども、とにかくベルツという人はなんか陰謀で……怒つてやめたんですね、東大を。「もう外人なんていらぬ……」というより……

東 そうそう、そういうことでしょう。そういうことがあつたらしいな。

權 富士屋ホテルの歴史があるんですね。それにベルツが出てるんです。ベルツというのは、温泉が好きで箱根の富士屋ホテルにしょっちゅう来てた。

武見 だって、きみ、草津聞いたのもベルツだ。それから、葉山もそうだと。

樽 それで、女中がヒビをきらしていったんで、それをかわいそうだといって、いわゆる「ベルッホ」を作ったというんですね。武見 「ベルッホの日記」というのが岩波文庫で出ているでしょう。あれ見ると、ベルッホというのはやっぱり、ただの医者じゃなくて大へんな文化人ですね。

東 そうでしょう。

薬佐八郎と北里集三郎
武見 ほくは薬佐八郎に非常に信用があつてね。

樽 留ったんですか。ほくも留りましたよ。武見 それで「北研へ来い」といわれたんだ。行かなかったんだ。それから内科へ行っちゃったんだ。「おまえ、内科に行っちゃったんだ」「おまえ、内科へ行っちゃったんだ」と言われて、内科へ行っちゃったんだ。

そうして何年か経ってから、ほくは理研にいて、春と秋に理研に講演会というのがございましてね。そこで、自分の研究発表をやったんだ。そうしたら、前に志賀先生と薬先生が並んでるんだ。おれのことキョロキョロにらんでた。それで、すんでからご挨拶申し上げた。そうしたら「おまえ、おれの言ったとお

りつまらなかつただろう」とおっしゃるから、そうだと。

ちようどお昼になったから、ほくの部屋においで願って一緒にお昼食べたんだよ。先生、弁当持ってきて、ほくも弁当なんだ。そうして、鈴木梅太郎先生と親しい——というんで、鈴木先生に電話かけたらやって来られて……その話、面白いんだな、二人がね。

鈴木先生が、薬さんをつかまえて「おまえ、ケミストリーをもっと知るといいんだけれどどもなあ」と言うんだな(笑)。そうしたら薬先生が「おまえは、パイオロジーを知らないからな」と(笑)。大先生同士のつまらない会話を聞いて、一人で差しんでいたがね。

しかし、ほくは薬先生の講義で……あれはきみ、風采があがらなかった。詰りの服を着て、頭は角刈りだろう、大工の棟梁みたいな。ほくは学生で、薬先生の顔知らなかったんだ。教室に入ってきて黒板消しはじめたんだ、小使だと思つたんだ。

そうしたら、すわりこんでエンマ帳で出席とりはじめた「ああ、イケネ」と思つた(笑)。その時の第一声が曰く「おれがつくつた」サバルサン(なん)というのは、五年経

つたら姿を消すべきだ。あとの奴が不勉強だから、あんなもの残ってるんだ」と。(笑)しかし、きみ、あんなものを考えさせる講義をした先生はなかつたよ。

樽 ほくはウツのソラで聞いていたから、何もわからなかつたけれども。

武見 エールリッヒのザイテンケツテン・テオリなんか「どこか問題があるか、どこか問題があるか」と、いもち聞かれたって、こっちは覚えるほうが一生けんめいで、ダメでしょう。そうすると「こういうケースは説明つかないがどうだ」というんだよ。ほくは、あの先生くらい立派な講義はなかつたと思う。

原 薬さんで、ほくは阿部勝馬先生に論文を審査してもらつてね。その時五、六人名前をあげて「この人の所だけ、ちよっと名刺だけ持っていて挨拶しておけ」と。薬先生のところへもいわれるとおりにしたら廊下へ出てきて「きみ、これだけの用事か、そんなヒマがあつたら勉強しておけ」と(笑)。叱られたけれども、いい印象でしたね。

北里先生の印象はどうですか。

武見 ほくの学生の時に、コックフェター財団が予防医学教室を慶応へ寄附した。その

時ほくは、小泉丹先生の所でなんか手伝っていたら、ブタの回虫をデモンストレーションに出しているんだよ。「おまえ、ここへ立っていて説明せい」と言われて立っていたら、北里先生が現れてきて「黙って立っていたって説明にならんよ」と怒られちゃつてね(笑)。

ところがあの先生、コワイことじゃ有名だつたけれども、北研で、廊下の壁にくっついて、先生が通るとよけていただろう。ご機嫌がわるいと、なんか「壁が汚れるよ」って怒つたそうだ(笑)。これは聞いた話で、ほんとうかどうかわからんけれども。

樽 そういえば武見さん、北里先生に似てきたよ(笑)。

武見 そんなことないよ(笑)。ほくはあの先生に恩恵を受けたんだ。

樽 影響を受けてるんですか？
武見 いや、ほくはあの頃、ポータブルの心電計がなかったんだよ。それでザイゲンガルパノメーターで、廊下に人が通ると写らないんだ。廊下を通さないようにしておいて暗い部屋でとるんだよ。ベッドサイドじゃとれないんだ。

その時雑誌見たら、シーメンズで、そのベ

ッドサイドでのポータブルの心電計が出ているんだ。西野先生に「これ、買って下さい」といいたら、二五〇〇円なんだ。当時の二五〇〇円というのは大金なんだ。「ダメだ」というんだ。予算がないというんだ。

原 当時の一教室の予算ぐらいだからなあ。

武見 それで、中央事務所に行つて、事務長に談判せいと。西野先生、自分が談判してくれりゃあいいのに……興味がないんだよ。ヘルフエンばかり興味があつて、やつてくれないんだ。それからほくは、吉沢という事務長よく知つたから談判にいったら、あれ、生意気なこと言いやがって、「主任教授がおれの所に回すものなんて、おれが買ってやるか」なんて怒られちゃつて……。

こっちはきみ、チンピラ助手だろう、卒業したての。そうしたら北里先生、学長室からちようど出てきて——ほくと事務長のヤリトリを聞いてたんだな「よし、よし、買え、買え」と言うんだ。もう仕方ないんだ。ヤッコさん固つて「買いましよ」と(笑)。

青山風通と入沢達吉

原 東先生、北里先生の名前が出たから、

つたら姿を消すべきだ。あとの奴が不勉強だから、あんなものを残ってるんだ」と。(笑)しかし、きみ、あんなものを考えさせる講義をした先生はなかつたよ。

樽 ほくはウツのソラで聞いていたから、何もわからなかつたけれども。

武見 エールリッヒのザイテンケツテン・テオリなんか「どこか問題があるか、どこか問題があるか」と、いもち聞かれたって、こっちは覚えるほうが一生けんめいで、ダメでしょう。そうすると「こういうケースは説明つかないがどうだ」というんだよ。ほくは、あの先生くらい立派な講義はなかつたと思う。

原 薬さんで、ほくは阿部勝馬先生に論文を審査してもらつてね。その時五、六人名前をあげて「この人の所だけ、ちよっと名刺だけ持っていて挨拶しておけ」と。薬先生のところへもいわれるとおりにしたら廊下へ出てきて「きみ、これだけの用事か、そんなヒマがあつたら勉強しておけ」と(笑)。叱られたけれども、いい印象でしたね。

北里先生の印象はどうですか。

武見 ほくの学生の時に、コックフェター財団が予防医学教室を慶応へ寄附した。その

青山龍通先生の印象はどうですか。

東 青山先生には心酔していましたね。

原 あの頃は「青山、北里、北里、青山」と、何ごとでもそういう話題が出たから。

榎 青山先生の講義はお聞きになったんですか。

東 講義は聞きました、最後に聞きました。一ばん最後の学生ですね。卒業試験も青山先生がしてくれることになっていたので、試験の前に亡くなったんで急に替って真鍋嘉一郎氏が……。

東 大じゃあ、内科の先生は三人だったでしょう。青山龍通、三浦耀之助、入沢達吉と。そのだれかに当るんですよ、卒業試験が。わたしは入沢先生に当たったんです。外科は佐藤三吉、近藤次郎の二人でしょう。わたしは入沢、近藤という組で……。

原 入沢先生は芸術的なものが……。

東 入沢先生はそういう意味では話題にのぼりましたね。自分でも文章は書かれますし。

武見 名文ですよ、先生のは。

東 そうですね。青山先生というのは無口で、こわい先生でしたね。

「医家芸術」の将来について

いるんですが、どうですか。

武見 これ、まったく違うね。

原 林くんという人はいろんな評判があつたけれども、頭のいいのでは頼がないと思うんです。そのいい頭を乱用したかな。

武見 林くんは、最後の細君だけは失敗敗だ。あの女房で大失敗で万事おしまいでしたね。

榎 あの人はすべてに電頭蛇尾ですよ、お終いが悪い。小説も、長い小説見てもらなさい。頭の出はとつてもいいが、お終いはダメ。人生も電頭蛇尾だとほくは言うんですけども。

武見 今ちょっと気の毒だけれども。

原 わたしは「医家芸術」は開業医の方々を中心にして……。それには幸いに武見さん——医師会長の好意があるんだけど、そんなことは仮りに離れても、根本は各県の医師会長に結びつきたいんです、わたしは、それがなかなか……。

武見 それは、ほくは逆に失敗すると思う。原 だから、そういう話を聞きたいんです。

武見 これは、各県の医師会長は芸術の面では結んだ友達というよりは、医政の面の担当者つながりが多いですから、芸術的なつな

原 「医家芸術」が今日になったというのは、やはり日本医師会の、武見医師会長の好意ですけれども……。

武見 いや、どういたしまして……。

原 日本医師会長って、何人ぐらいになるんですか。

武見 ほくは十三代目ですよ。

原 その中で、ちょっと話題にのぼるような方はどんな方ですか、古い順に……。

武見 そうね、開祖が——第一代が北里先生です。第二代が北島先生、第三代が中山寿彦、それから稲田龍吉かな。稲田先生の時からもう政府が任命したらしいです。それからあとが高橋明さん、それから田宮先生、それから黒沢、小畑、谷口さん、それからほくなんだ。

原 あなたが一ばん長いですね。

武見 開祖以来、長いレコードつくった。こういうゲタモノ商売、こんな長いことするはずなかったんだけどね。

榎 おしまいに「医家芸術」の将来に、なんかご希望なり、お考えなりをお二人からお聞きしたいんですが……。

武見 ほくは、地方におりましたわりあい表へ出ないで、地道な活動を地元でして

るという人なるべく網羅する形にしてほしいと。

榎 それです。そういう意味で、どうしても原稿が、投稿が片寄るんです……。地方にいて、中央のことがわからんもんだから遠慮している連中がだいぶいるんです。それで、そういう連中のためにコラムを三つ作ったんです。「顔」というコラム、これは二人で一組となって他已紹介。それから「わが家の家宝」、もう一つは「ある日の出来事」、これは日記ですが、ごく短いコラムです。こういうもので、そういうなるべく広い範囲に離れた人を引き出そうと考えて作ってみたんです。ただ「顔」というコラムは、どうもみんな書く連中が少なくなってユーモアが欠けるんですよ。

武見 殊にお医者さんというのは除口はきくけれども、面と向って悪口言わんばかりだから(笑)。

榎 ほくは、悪口じゃなくてもユーモアがあると思うんです。

武見 いや、悪口ぐらいあったほうが面白いんだよ、き。

原 特集号のテーマですが、宮田重雄と木々高太郎と、ちょっと専門が違うんで考えて

う少し巾が——地盤が広くなりますよ。一番いいことは、県的那种いろいろ展覧会のある時にどなたかおいでになって、座談会でもなさるということも、大へんいいと思うな。

東 それで、その記事を載せると。

原 だけれども「芸術」という言葉にオンレをなして「わしは芸術はダメだよ」というのは、ほくは「いい医者は芸術家だ」というんだけれども、そこいところなんですよ。

「芸術」という言葉が……。

榎 もう一つ問題なのは、式場さんは天才的な人で顔が広がったんですよ。あの人が馴染んでいる時には、外部に對する結びつきが——コミュニケーションですね。これが非常にうまくいってたんです。ですから、あの人のやった座談会をみますと、ずいぶん広い範囲の人を動員してらんです。これがいささか、今狭くなってるんです。内々ばかりのことになってしまして、少しは外部とのコミュニケーションをとったほうが「医家芸術」という名前が……。

武見 それは、非常にいいと思う。そういう点では宮田重雄が死んだのは惜しいね。

榎 興味深いお話を沢山いただきありがとうございます。ではこのへんで……。(一)